

# With you

特集 | 地域の医療をつなぐ

## Contents

- P.02 地域の医療をつなぐ
- P.08 就任挨拶



# 地域の医療

# をつなぐ

## 大学病院における地域医療連携部の役割

近年、急速な社会の高齢化、核家族化や医療の細分化・多様化が進む中、個々の患者さんのニーズも変化してきています。この変化に対応するためには地域全体で医療や介護の提供体制を築いていくことが求められています。地域医療連携とは、患者さんに必要な医療を適切に提供するために、地域の各医療機関が相互に連携することです。治療内容や施設の規模に応じて地域の各医療機関が医療の分担をすすめ、相互にそれぞれの特性を把握し有効活用することによって、患者さんに適切かつ切れ目のない医療を提供できるようになります。

当院は開院以来、大学病院として様々な高度医療や救急医療を担当して参りましたが、近年は社会の変化に対応すべく、在宅医療介護部門を立ち上げ、急性期疾患ケアのみならず慢性期疾患や高齢者のケアの充実にも取り組んでおります。また地域完結医療の実践を目標に、地域医療を支援する病院として、2020年に「地域医療支援病院」の承認を受

けました。これを機に、地域医療レベルの向上を目指した医療従事者対象の勉強会・研修会の企画開催や、当院の大型医療機器や施設の共同利用推進を図り、当院の登録医療機関（2023年12月現在594機関）と共に、よりスムーズかつシームレスな医療を患者さんに提供できるよう励んでおります。

地域医療連携部には、医師1名、専従看護師6名、兼任看護師1名、医療ソーシャルワーカー6名、専任事務職15名、総勢29名を配置し、患者さんや地域の医療機関のニーズに迅速に対応ができる体制を整えています。主たる業務として、紹介患者さんの受診予約、緊急転院・診療要請の対応、他院への患者さんの紹介（かかりつけ医の紹介）、入退院に係る支援、患者さんの相談支援などを行っております。これからも地域医療支援病院として、かわるがわるすべての患者さんに安心して良質なケアを提供できるよう、スタッフ一同全力で取り組んで参ります。

### ご挨拶

地域医療連携担当副院長の菅俊光と申します。現在の医療は細分化、専門化が進み、一つの医療機関で患者さんの治療や介護を完遂することが難しくなっています。そのため、地域の医師・看護師を始めとした多職種が協力して地域全体の医療や介護を提供することが必要となってきました。言い換えれば、地域多職種連携を充実させることにより、専門性の高い疾患のみならず、よく見られる高血圧や高脂血症などの生活習慣病に関しても効率的で質の高い医療が提供されることとなります。



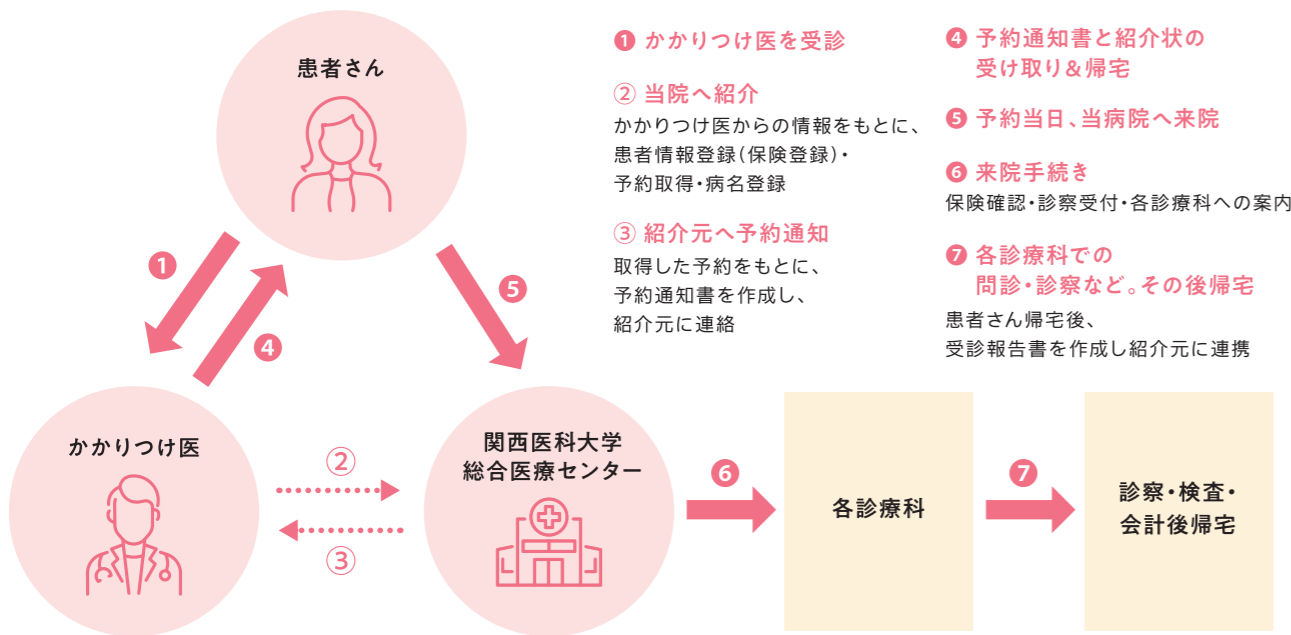
地域医療連携担当  
菅俊光副院長

当院は、紹介患者さんの受け入れや救急医療の提供、地域医療従事者向けの研修実施などが評価され、2020年に「地域医療支援病院」の承認を受けました。今後も地域医療の基幹となる病院として、地域の先生方との連携強化や市民健康講座などの開催を通じて地域医療レベルの向上を図り、北河内・大阪北東部の皆さんの健康維持に貢献できるように尽力していきたいと思っております。

## 地域医療連携とは...?

地域医療連携とは、患者さんのかかりつけ医において、より専門的な検査や治療の必要があると認められた時、かかりつけ医が当病院へ紹介し、予約をとるシステムです。検査後は、その結果によりかかりつけ医で治療を続けていただきますが、場合によっては当院で治療を行っていくこともあります。

### 患者さんが当院に受診されるまでのながれ



当院は、2020年3月10日付で、  
大阪府から地域医療支援病院\*の承認を受けています。

患者さんに良質な医療を提供し、地域で安心して生活いただくため、「病院完結型」に代わる「地域完結型」医療を推進することもまた、地域医療連携部の仕事の一つです。関西医科大学の附属医療機関（附属病院、香里病院、くずは病院、天満橋総合クリニック）と連携し患者IDなどの医療情報を共有することで各病院の機能に応じた医療の提供を行っています。

一方で、地域の「かかりつけ医」とも強固な信頼関係を構築し、連携を図りながら、患者さんの視点に立った安全・安心な医療を提供するための諸活動を行っています。またWEBセミナーや地域連携の研修会も定期的開催し、知見や技術を地域医療機関と共有することで地域全体の医療の質向上に努めています。

\*地域医療支援病院とは…

患者さんに良質な医療を提供することを目的とした「地域完結型医療」を実現するため、地域の診療所・クリニックに対して、高度な医療を提供するとともに、医療機器などの共同利用を推進するなど地域医療を支援する病院のことで、都道府県知事から承認されます。



Webセミナー



市医師会との地域連携の会



# 患者支援センター 地域の医療機関との架け橋

地域医療連携部が一員となり、他部門と連携して運営する患者支援センターは、「入院前支援窓口」と「患者総合相談窓口」で構成されています。患者さんのスムーズな受け入れと退院に向けた支援を効果的に進めるために、院内のさまざまな部門と連携して、最適な医療サービスの提供に努めています。患者さんの権利を守り、一緒に話し合い、考えながら希望に応えられるよう日々活動しています。

## 入院前支援窓口

入院に対して可能な限り不安を取り除けるよう、看護師などの専門職がパンフレットを用いて入院前の支援をしています。また、患者さんの思いや生活背景をうかがい、入院直後から必要な医療・看護が提供できるよう、病棟看護師と情報を共有し、支援計画を立てています。



## 患者総合相談窓口

看護師、医療技術職、医療ソーシャルワーカー(MSW)および専門研修を修了した事務職すべての職種が連携し、専門的知識や技術に基づいて患者さんやご家族の療養生活を支援します。療養に関することだけでなく、円滑な社会復帰や、医療費・生活費などの経済的問題の相談・支援も行っています。



### ご相談いただける内容

- 診療に関すること
- 公的扶助制度に関すること
- 外来通院に関すること
- 支払いに関すること
- 入院、退院の手続きに関すること
- 退院後の生活支援

### がん相談支援センター

専任の医療ソーシャルワーカー(MSW)とともに、看護師やその他の医療スタッフが、がんに対する不安や悩みをうかがい、一緒に考え、問題解決に向けてのお手伝いをさせていただきます。

### 肝疾患相談センター

生活上の困りごとなどに対し、各専門職が無料でご相談をお受けしています。内容に応じて肝臓専門医・看護師・薬剤師・栄養士・医療ソーシャルワーカー(MSW)・事務職員が対応いたします。

# 地域医療連携部の構成

## 医師

地域医療連携部全体に係る方針や、市民公開講座の開催などを指揮します。また、総合医療センターの顔として地域医療機関との連携強化に努めます。地域住民の状況を把握し、地域医療の質向上につなげるため、実際に地域の医療従事者と面会し、意見や情報の交換を行います。

## 看護師

入院される患者さんに対し、入院前支援窓口にて健康状態や不安に思っていることをうかがい、円滑な入院退院ができるようサポートします。入院中は、院内での患者さんがどのような状態であるか、診療状況とともに紹介元の医療機関へ共有します。退院の際には利用可能な社会制度の情報提供や訪問看護ステーションの紹介などの調整を行います。

## 医療ソーシャルワーカー (MSW)

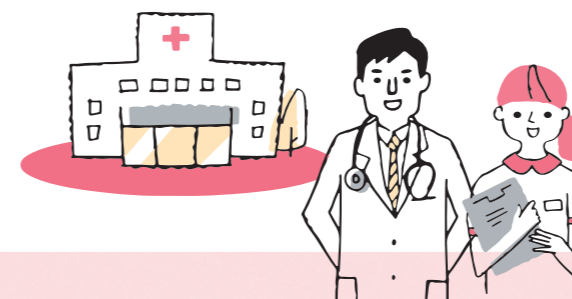
入院調整と退院調整の業務の他、患者総合相談窓口にて患者さんやそのご家族の相談役となります。治療や療養に関する不安、退院後・介護に関する不安、経済的な不安など様々な問題の解決に向けてお手伝いをいたします。窓口にはがん相談支援センター、肝疾患相談センターも併設しており専任の医療ソーシャルワーカー(MSW)が無料で相談をお受けします。

## 事務

入院調整や外来診療がスムーズに受けられるよう、地域医療機関と当院の医師とのパイプ役となり連携を図ります。紹介患者さんの予約調整、経過報告、退院支援、セカンドオピニオンの窓口業務の他、市民公開講座や医療従事者向けの勉強会など当院の持つ医療知識を地域に啓発するための広報活動業務も行います。

## 病診連携課

- 地域医療機関からの紹介患者さんの予約受付
- 受診報告など病診・病病連携に関すること
- 関連医療機関への広報に関すること
- 紹介・逆紹介を円滑に行うための医療機関の情報収集・提供などの業務
- セカンドオピニオン外来からの予約
- 医療従事者対象の勉強会・研修会開催
- 一般の方対象の市民公開講座の開催



## 医療福祉相談課

- 福祉相談・支援、当院から転院される患者さんのコーディネートなど
- 医療相談窓口の対応
- 在宅・転院される患者さんの調整
- がんセンターなどの院内各センターへの事業の支援
- 外来通院中のご相談
  - 介護福祉機関との連携
  - 療養中の様々な問題
  - 経済的な問題・社会復帰サポート
  - 受診、受療援助
  - 地域での活動
- 入院の方に関するご相談





お困り

6

セカンドオピニオンの  
相談や予約は  
できますか？

セカンドオピニオンをご検討の方は、まずは現在の担当医にお話しいただき、必要に応じて他院や当院のセカンドオピニオンをご案内いたします。ご希望の場合は、外来受診予約・変更窓口にて予約をお取りしますのでお申し付けください。また、当院でのセカンドオピニオンは受診されている医療機関を通じてお申し込みいただけます。申し込み受付後、相談日時をセカンドオピニオン外来担当医と調整し、ご連絡いたします。費用については、保険適用外のため患者さんの全額負担となりますが、不安や疑問に対して専門的なアドバイスを提供することで、より良い治療のための選択肢をご提供しています。



お困り

8

もうすぐ退院なのですが、  
在宅医療、介護、退院支援  
について相談できますか？

看護師と医療ソーシャルワーカー(MSW)がお話をうかがいます。福祉施設や関連施設などのご紹介も行っています。ご希望に合わせて、最適な支援策をご提案いたしますので、お気軽にご相談ください。



お困り

5

肝疾患患者の療養や  
治療上の不安や悩みを  
相談したいです。

医療ソーシャルワーカー(MSW)が中心となり、患者さんやご家族の方が抱えるお悩みやご相談に対応しています。肝炎治療医療費助成制度についてはもちろん、病気に関する情報や健康管理のアドバイス、生活面でのサポートなど、患者さんのニーズに合わせたサービスを提供しています。また、当院の肝疾患専門医とも必要に応じて連携を取りながらサポートいたします。



お困り

7

診療情報の開示を  
してほしいです。

ご要望いただいた診療情報の開示につきましては、患者さんが安心してご利用いただけるよう、適切に対応いたします。医事課のカルテ開示担当者と連携し、開示に必要な書類をご用意させていただきます。

お困り

4

がん患者の療養や  
治療上の不安や悩みを  
相談したいです。

看護師と医療ソーシャルワーカー(MSW)が中心となり、緩和ケアや治療をしながらの生活などの具体的なご相談から、患者さんやご家族の方が抱える想いや漠然とした不安感など、何でもお話しください。あなたの話を親身にうかがい、全力でサポートいたします。どうぞお気軽にご相談ください。

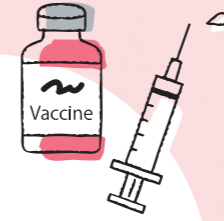


お困り

2

治療費・入院費に関する  
相談はできますか？

お気軽にお申し付けください。医事課担当者と連携をとってご説明いたします。私たちは患者さんの負担を最小限に抑え、適切な費用負担で医療を受けていただけるよう全力でサポートいたします。皆様が安心して治療を受けられるようお手伝いいたします。



お困り

1

診療に係る相談や苦情を  
伝えたいのですが。

ご相談や苦情がありましたら、患者さんにとって最善の対応を目指し真摯にうかがいます。関連部署と連携しながら、適切かつ迅速な対応を心がけて参りますので、どうぞお気軽にお申し付けください。お力になれるよう全力でサポートさせていただきます。



お困り

3

保健や医療、福祉制度に  
関する相談はできますか？

患者さんにとって最適な制度やサービスの情報提供を行っておりますので、何でもお気軽にお尋ねください。また、更生医療や指定難病医療費助成制度、B型肝炎訴訟などの各種手続きに関するご相談も受け付けており、医療ソーシャルワーカー(MSW)や医事課担当者を中心にご説明させていただきます。



# 就任挨拶

## MESSAGE



副病院長

金田浩由紀

### 副病院長

2023年4月から副病院長を拝命しました。これまで、呼吸器外科、臨床倫理、医療安全を専門としてきました。当院は477床ながら、より大規模な病院に相当するくらいの高機能な急性期医療を担っています。高度な医療を行うが故により大切になるのは、医療において基本的な枠組みとなるインフォームド・コンセントにしっかりと取り組むことです。病院理念である「慈仁(めぐみ)を心の鏡とする」という規範を掲げる組織として、職員のひとりひとりが高い倫理意識を持てるような体制を維持したいと思っています。医療の質改善の活動を中心に、病院執行部の一員として地域の期待に応える医療を提供できるよう努力していきたい所存です。

### 副病院長

2023年4月から副病院長を務めさせていただいています菅俊光です。日頃は、リハビリテーション科医師として診療しています。2024年は能登半島地震で幕を開けました。被災者の方々にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。災害時には地域医療の果たす役割は大変重要です。もちろん、我々は災害時だけでなく平時においても、地域の皆さんの健康を守る病院として、そして皆さんから信頼される病院としてしっかり機能していきたいと思っております。しかし、より良い地域医療を築くには、皆さんと地域医療機関の先生方の協力が不可欠です。どうぞ、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



副病院長

菅俊光

### 歯科・口腔外科診療部長

この度歯科・口腔外科診療部長に就任しました坂本由紀です。当科は2020年に開設し、入院患者さん・全身麻酔下での手術を受けられる患者さんの口腔管理、また口腔外科疾患の外来診療も行っております。当科では、口腔腫瘍、顔面外傷、睡眠時無呼吸、炎症(歯性感染症、薬剤関連顎骨壊死)、顎関節疾患(顎関節症、脱臼、腫瘍)などを取り扱い、全身麻酔による治療も積極的に行なっております。睡眠医療や薬剤関連顎骨壊死に関しては、最新の知見に基づき治療法を提示させていただきます。

今後もより多くの患者さんを受け入れ、地域医療に貢献できるよう発展して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



歯科・口腔外科診療部長

坂本由紀



臨床検査医学科診療部長

野村恵巳子

### 臨床検査医学科診療部長

2023年7月1日付で臨床検査医学科診療部長を拝命いたしました。臨床検査はすべての診療科にとって、診断・治療方針の決定や効果判定に欠かせない検体検査や生理学検査を担う重要な部門です。このため、常に迅速で正確な検査結果を提供することが求められます。患者さんが安心して医療を受けられるよう臨床検査技師とともに検査の品質を保ち、精度を確保できるよう取り組んで参ります。また、これまで通り内分泌代謝内科科長も兼務し、診療にも邁進していく所存です。少しでも多くの患者さんに満足していただける医療を提供できるように努めて参ります。

### 臨床工学センター長

2023年4月1日から臨床工学センター長を拝命いたしました。医療技術の進歩に伴い、高度化・複雑化する医療機器の保守・管理・操作を担う専門職として、臨床工学技士の役割はますます重要になっています。人工呼吸器・輸液ポンプなどの医療機器の保守・管理にとどまらず、血液浄化業務、人工心肺業務、心臓カテーテル業務、内視鏡業務、ロボット支援手術関連業務など年々業務が拡大し、臨床工学技士はそれぞれに専門分野を持ちながら幅広い分野の知識・経験が必要になっています。臨床工学センター全体でレベルアップを図りながら、最適かつ安全な医療技術を皆様に提供できるよう努力していく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。



臨床工学センター長

吉矢和久

### 輸血部長

2023年6月1日付で輸血部長を拝命いたしました岡田昌也です。輸血部は多くのボランティアドナーの善意に支えられた「献血」から作成された赤血球成分製剤などの血液製剤の管理、適正使用を担う部門です。患者さんの救命に必要である血液製剤の迅速かつ適切な提供を、輸血事故の防止等の安全性確保を念頭に、責任を持って支えたいと考えています。また、近年悪性リンパ腫等に対するがん治療において細胞医療が目立っています。輸血部では本年度、新規血液成分分離装置を導入いたしました。細胞医療の担い手としても主治医の先生方と協力し、患者さんの要望に応じていきたいと考えています。何卒、よろしくお願いいたします。



輸血部長

岡田昌也

### 肝臓病センター長

この度肝臓病センター長に就任しました肝胆膵外科の北出浩章と申します。私は外科治療の面で長年肝疾患と向き合ってきました。当院は肝疾患診療連携拠点病院に指定されており、関連各科と協力し、様々な肝疾患に対して高度で先進的な医療が実践されています。また、専門医療機関およびかかりつけ医との連携支援を行い、府内の肝疾患診療ネットワークの中心的な役割を果たすことにより、肝炎の治療・肝がん撲滅に寄与しています。肝がん治療は手術療法、化学療法、放射線療法の進歩により、選択肢が増えました。当センターは最新で最善の治療を行うことで患者さんの健康に貢献することをお約束します。



肝臓病センター長

北出浩章



# 就任挨拶

## MESSAGE



腎泌尿器外科診療部長・  
結石治療センター長  
三島崇生

### 腎泌尿器外科診療部長

2023年4月1日付で腎泌尿器外科診療部長を拝命いたしました三島崇生です。2003年に関西医科大学泌尿器科学講座に入局、2017年4月当院に着任し、以降現在に至るまで当院で診療して参りました。

当院腎泌尿器外科は悪性疾患に加え、尿路結石、排尿障害、女性泌尿器疾患など幅広い疾患に対し、地域医療に密着しながら診療していくことを心がけております。2022年9月にはロボット支援機器ダヴィンチXiシステムを導入し、ますます診療の幅を広げていけるものと思っております。

当院の掲げる“地域密着型”病院として今後も更に地域医療に貢献し、その責務を果たしていく所存ですのでどうぞよろしくお願いいたします。

### 結石治療センター長

2023年4月1日付で結石治療センター長を拝命いたしました。

当センターでは以前から積極的に尿路結石治療に取り組み、患者さん方が少しでも満足できる治療を目指しております。尿路結石は過去に比べ罹患率は上昇しており、今や他人ごとではない疾患となっております。その要因としては食の変化や生活習慣病やメタボリックシンドロームとの関係も指摘されております。

当院結石治療センターでは、尿路結石に対して様々な機器を取り揃えています。入院を必要とせず外来にて治療が行えるESWL(体外衝撃波結石破碎術)、腎盂内・尿管といった上部尿路に対する治療を可能にする軟性尿管鏡を用いた経尿道的尿路結石破碎術(f-TUL)、膀胱内に存在する結石への経尿道的膀胱碎石術、腎臓内に存在する大きな結石(2cm以上)に対する同時に碎石した破片を吸引回収できる超音波碎石器を用いた経皮的腎碎石術も行っており、小さな破片も残さないように心掛けております。

これからも少しでも患者さんの負担を減らし、再発の少ない治療を目指して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

### 眼科診療部長

年を追うごとに人々の見え方に対するニーズは高まっています。特に白内障手術の分野では裸眼での良好な視力や術後早期の視力回復など、手術を受けられる患者さんの期待値は非常に高いものとなっております。このようなご期待に応えるべく最新の診断機器や手術機器、治療法を取り入れています。一方で加齢黄斑変性や緑内障などの難治性疾患の患者さんに対しは、現在の視機能を維持すべく長期の治療方針を立て、ご本人さまやご家族さまと相談しながらそれぞれの状況に応じたオーダーメイドの診療を行っています。おかげさまで多くの患者さんにご来院いただいております。入院待ちなどでご不便をおかけすることもあるかと存じますが、安心して治療を受けられるようスタッフ一同尽力しておりますので何卒ご容赦いただきますようよろしくお願いいたします。



眼科診療部長  
尾辻剛



胆膵疾患センター長・  
薬剤部長  
島谷昌明

### 胆膵疾患センター長

2023年4月1日付で胆膵疾患センター長を拝命いたしました。

膵臓がんや胆道がん(胆管がん・胆嚢がん・十二指腸乳頭部がんなど)は、診断・治療がとても困難な領域です。一般病院における通常の検査では発見できないことも多く、早期発見の難しさが予後不良となる原因の一つであると言われております。近年の技術革新により、高度な膵臓・胆道の内視鏡診断・治療や外科手術も可能となってきましたが、全国的にこの分野の内科・外科の専門家がそろっている施設はまだ少なく、「胆膵疾患センター」を有している施設は珍しいため、当センターは関西医科大学総合医療センターの特長の一つでもあります。

当センターでは消化器肝臓内科・胆膵外科の専門家だけでなく放射線科・病理診断科など関連診療科との連携を図りながら、悪性疾患だけでなく、総胆管結石や胆管炎・膵炎といった良性疾患に対しても大学病院ならではの専門的で先進的な医療を安全かつ統合的に提供しております。

私が消化器肝臓内科の教授として赴任して以来、消化器内視鏡の件数は増加傾向にあり、特に胆膵内視鏡検査・治療の件数は増加の一途をたどっており、それに伴い胆膵疾患の手術件数も増加しております。消化器肝臓内科・肝胆膵外科・腫瘍内科・放射線科が中心となり総合的に治療方針を検討し、一人一人の患者さんの状態に応じた最適な治療を受けていただけるようチーム一丸となって診療に取り組んでおります。

最新かつ最善な治療を一人でも多くの患者さんに提供できるよう精進していく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

### 薬剤部長

2023年4月1日付で薬剤部長を拝命いたしました。

薬剤部は、外来・入院患者さんの内服薬や注射薬の調剤、医薬品管理、製剤、医薬品情報管理(DI)、高カロリー輸液調製などの業務を行っています。病棟業務では薬剤師は安全で有効な薬物療法に貢献し、がん化学療法チームにおいても有効性・安全性を確保するために積極的に関わっています。また、栄養サポートチーム、感染対策・抗菌薬適正使用支援チーム、緩和ケアチーム、褥瘡チームにも薬剤師が薬の専門家として積極的に参画しています。

今後は薬剤部一丸となって医療チームの一員として安全かつ良質な薬物療法の推進に努めるとともに、患者さんの生活の質(QOL: Quality of life)の向上に貢献できるよう精進していく所存ですので、ご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。

### こころと育ちの支援センター長

小児科では、従来から子どもの発達の支援や心の問題に取り組んで参りました。これらの問題は患者さん家族と小児科医だけでは、対処が難しく解決に時間がかかります。そこで「こころと育ちの支援センター」では、小児科医、精神科医、心理職、院内学級(大阪府立刀根山支援学校関西医科大学総合医療センター分教室)教員等の多職種が連携して、子どもたちを支援します。

2023年度は、今までの診療に加えて、「発達障がい児のペアレントトレーニング」、「発達障がい児の療育相談」を行っています。



こころと育ちの支援センター長  
石崎優子

## ● ラピッドレスポンスカー導入

守口市門真市消防組合との災害における協力体制にかかる覚書締結のもと、ドクターカーの中でも迅速に救命医療を開始できるラピッドレスポンスカーを導入し、2023年6月末から運用を開始しました。これは、要請に基づき医療者が災害現場に直行し現地で緊急性の高い疾患への対処などに使用できる、機動性に優れた多目的の乗用車タイプです。また、電力供給が可能なプラグインハイブリッド車であるため、大規模災害時には電力供給が絶たれた被災現場における、被災者に対する電力供給も可能です。この導入により、地域での救命率向上に寄与する働きが期待されます。



## ● 防犯／災害訓練を実施しました

2023年10月11日(水)に管轄の守口警察署の協力を得て、興奮状態にある犯人に対応する防犯訓練を実施しました。警察への通報、被害者の搬送と蘇生、周辺患者の避難誘導、防刃チョッキなどを着用した保安課職員による対応、到着した警察官による制圧・逮捕までの迫真の訓練は、15分という短い時間ながら貴重な体験となりました。

また、同年10月21日(土)に南海トラフ地震発生を想定した災害訓練を実施。訓練ではトリアージで、次々に搬送される負傷者を重症度に応じた黒・赤・黄・緑の治療優先度別に分類、処置を行いました。今年度はLINE WORKSによる状況報告および安否確認、災害用備蓄食品の搬送など、新たな訓練にも取り組みました。



## 当院Webサイトをリニューアルしました

このたび、より情報を見つけやすく分かりやすいWebサイトへとリニューアルいたしました。

リニューアルWebサイト



## ● TVモニターを設置しました

以前から多数のご要望があったTVモニターを、本館1階総合受付に設置しました。

